

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670600200
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム出町柳
所在地	京都府京都市左京区田中下柳町18番地の1 (電話) 075-791-6822

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月15日	評価確定日	平成20年8月18日

## 【情報提供票より】(平成 20年 3 月 12日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.4人

## (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	75000~90000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		¥1,267	

## (4)利用者の概要(平成20年5月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	62 歳	最高	88 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 洛和会音羽病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人洛和福祉会が運営する当該グループホームは出町柳の駅近くであり、静寂な常林寺の敷地内に建てられています。門扉を入ると、両側には木々が生い茂り、季節の花や野菜なども植えられています。ゆっくりと木々の緑や花を眺めながら、庭を散歩したり、畑で収穫した野菜を食事で頂くのが楽しみになっています。ホーム内には段差や階段がありますが、あえてバリアフリーにせず、筋力低下を防ぐためにもそのまま使われています。ソファでは、利用者同士や職員が、自由におしゃべりしたり、ゆっくりとくつろげる空間があり、思い思いの時間を過ごせる場所となっています。職員と利用者の会話は穏やかで、落ち着いた表情で生活されています。また法人として、医療体制の充実や研修に力を入れており、職員のレベルアップやケアの向上に向けて取り組まれています。職員のチームワークも良く、連携も取れており、利用者も安心した生活を送られているホームです。

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の結果を踏まえ、地域密着型の理念を作ることにについては、職員全員で話し合い、利用者の立場になって作成されました。また、やむを得ず鍵をかけることについては、家族に説明し了解を得ています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、管理者を中心に、全職員の思いを聞きながら、まとめました。評価を活かせるように、カンファレンスなどで、話し合い職員全体で改善に向けて取り組んでいます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	老人福祉委員会、民生委員、地域包括支援センターなどが参加する運営推進会議を2か月に1回開催しています。意見交換や情報交換を行い、サービスの向上に努めています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情ご意見箱を置いています。年に1~2回食事会を兼ねて、家族や利用者が集まり、意見や情報交換をしています。意見があった時は、職員で話し合いサービスの反映につなげています。また、家族アンケート・利用者アンケート(職員が利用者の身になって記入する)を実施しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、民生委員や老人福祉委員から行事の誘いがあり、参加しています。近隣住民の方と挨拶を交わしたり、小学生、中学生の来訪があり、クリスマス会やあさがお植えを一緒にやるなど、交流を図っています。また、ホーム内で、地域住民参加の認知症サポート講習も開催されました。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者一人ひとりが自然に過ごせる空間作り」という理念を全職員で話し合い、思いを込めて作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については玄関の目につくところに掲示しており、カンファレンスなどでも話し合い、実践しています。職員は、理念を理解し共有しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、民生委員や老人福祉委員の方から、行事の誘いがあり参加しています。幼稚園のバザーや運動会やお寺の数珠回しに参加したり、小学生、中学生の来訪があり、クリスマス会やあさがお植えを一緒にするなど交流を図っています。また、ホームで認知症サポートリーダー講習を行い、地域住民の参加がありました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を踏まえ、地域密着という思いを込めた理念の作成、止むを得ず鍵をかける場合には家族の了解を得る、避難訓練に関して地域参加の声掛けをするなど、改善に向けて取り組みました。今回の自己評価は管理者が中心になり、職員からの情報や思いを得てまとめました。それに基づき、改善目標について会議で話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人福祉委員、民生委員、地域包括支援センターが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。意見交換や情報交換をして、サービスの向上に努めています。家族に参加の依頼をしていますが、今のところ参加はありません。また、次回から利用者の参加を予定しています。	○	運営推進会議の意義や役割を理解して頂き、家族にも参加して頂けるようさらなる働きかけが望まれます。

洛和グループホーム 出町柳

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	洛和会の介護事業部が総括して、直接来訪したり、メールでの連携を図っています。	○	ホーム独自で、顔見知りになり、市の担当者と困難事例や相談をしてみても、いかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ホームでの暮らしぶり、金銭出納帳、レシートのコピーを送付し、確認をもらっています。満足度調査のアンケートについて職員の意見をまとめた結果報告など、来訪時や電話にて報告しています。また、「出町柳だより」を半年に1回作成し、写真入りの職員紹介や、後期高齢者などの説明を記載した新聞を発行しています。今後利用者の食事風景など、ホームでの様子を掲載していく予定です。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情ご意見箱を置いています。年に1~2回食事会を兼ねて、家族や利用者が集まり、意見や情報交換をしています。意見があった時は、職員で話し合いサービスの反映につなげています。また、家族アンケート・利用者アンケート(職員が利用者の身になって記入する)を実施しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、1~2週間の引き継ぎ期間を設け連携を密にするなどの配慮をし、管理者は、半年に1回職員の面談を行ったり、日々の仕事の中で、コミュニケーションを取り、心身の状況に気を配っています。また、法人が開催する、ストレスマネジメントなどモチベーションアップの研修や、上司に話せる機会も設ける予定です。現任の職員を中心に、連携体制を取り、馴染みの関係に配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、随時参加できるように支援しています。職員の参加意識も高まり、研修記録・報告書を作成し、それをもとに研修に参加出来なかった職員に伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの交流があり、情報交換をしています。また、一昨年前まで、グループホーム同士の交換研修が実施されており、再度職員からの要望もあり、再開できるよう検討中です。	○	法人内だけでなく、京都市や左京区、近隣のグループホームとの交流を持たれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用していたサービスや、利用者・家族からの情報を出来る限り収集し、要望があれば見学に来てもらい、利用者と一緒に食事をしたりしながら、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴や生活背景を把握した上で生活場面において、利用者との会話を通じて知識、経験を教わりながら、人生の先輩として、共に支えられる関係作りに努めています。利用者から、食事の準備や洗濯の干し方やたたみ方、ことわざ、歩き方など日常生活の中で、利用者も職員もお互いを頼りにする関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族からの情報収集を行ったり、洛和会独自の分析シートを作り、日々の会話や面会時でも意向を聞きながら、一人ひとりの思い、希望、意向の把握に努めています。意思疎通の困難な方には、表情やジェスチャーで、把握できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	分析シートをもとに面会時、電話等で家族の意見を聞きながら、個々の希望にそった介護計画がたてられています。24時間ケアシートを用いて、ケアの確認もしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、ケアプランの見直しを行い、状態に変化がある場合は随時見直しています。カンファレンスを開催し、状況に応じてモニタリングを行い、ホーム独自の生活援助計画を作成し、職員全員が確認し押印をしています。家族に郵送し確認をして貰い、同意を得ています。今後、家族の参加を促していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わっての通院介助や買い物の他、喫茶店でお茶を飲んだり、利用者の息子さんが、描いた絵を美術館まで見に行ったりしています。また、訪問理美容を利用されています。利用者、家族の要望があれば、個別での対応が出来るよう支援をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についてどうするのか、利用者や家族と相談して決めています。協力医による月に2回の往診があり、電話での相談も可能です。週1回の訪問看護もあり、24時間、医師との連絡体制がとられ、緊急時の対応も可能で、安心して医療が受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、法人からの看取りの方針を説明し、同意を得ています。終末期は、家族の要望があれば、家族の状況や協力体制、主治医、看護師、職員と話し合いを持ち、決めています。条件が整えば見ていく方向でその都度、相談をして方針を共有しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時のマナー研修や年間を通しての接遇研修を受け、一人ひとりの自尊心を傷つけないよう、言葉づかいや対応に気を配っています。配慮に欠けている場合は職員同士でお互いに注意し合うよう心がけています。また、力量評価という事で接遇に関する自己評価を実施し、振り返る機会を設けています。個人ファイルは鍵付きの引き出しに保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も様々でその日の過ごし方についても意思確認をした上で、一人ひとりのリズムに合わせたケアを心がけています。利用者からの要望や職員からの声かけで行きたい所、やりたいことがあれば希望に応じた支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、その日に利用者と一緒に考えています。冷蔵庫の中を見て、不足分の買い物や、利用者の好みのも、季節の野菜や果物を取り入れ、準備、食事、後片付けを一緒にしています。また、畑で採れるトマトや毎月の行事に合わせてのごちそう、外食も楽しみの一つになっています。中にはビールを楽しまれる方もあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	12時30分から、何時でも入れるようにしています。希望に応じて、毎日入ったり、日に2回入ったり、ひとりで、ゆっくりと入る方、利用者同士で楽しく入る方など、一人ひとりに合わせた支援しています。その日の体調に合わせて、清拭や足浴も支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩や買い物、調理準備や後片付け、掃除、洗濯物たたみなどの家事や畑の水やりなど役割や楽しみを感じながら生活できるよう支援しています。またゲームを楽しまれたりすることもあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、事前に聞いて、何時でも外出できるように支援しています。天気の良い日には、買い物やお寺の境内や庭の散歩に出かけたり、喫茶店に立ち寄ることもあります。週に1度は、全員で外出できるように配慮し、家族の参加も数回あり、一緒に出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的には鍵をかけておらず、自由な暮らしができるよう支援しています。利用者の状況に応じて、やむを得ず鍵を掛けることは、ありますが、家族に了承を得ています。日中は、自由に出入りできるよう支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の指導のもと、夜間想定での避難訓練を実施しています。また、2カ月に1回、連絡網の回し方や消火器の使い方、誘導の仕方など、ホーム独自で訓練をしています。	○	運営推進会議などを通じて、地域住民や近隣の方に協力してもらえるよう、話し合いを持ち、参加の働きかけをされる事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、毎回記録され、水分量は、必要な利用者のみ記録しています。一人ひとりの体調や体重制限、医師からの指示などに合わせてカロリーや塩分を控えた食事を提供しています。献立は、毎月法人に検食簿を送付し、チェックを受けています。おかゆやキザミ食、ミキサー食、トロミ食にも対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは、季節に合わせて植えられた花を見ることができ、一人ひとりが穏やかな表情で、ソファに座り、料理の準備が進む中で、歌を唄ったり話をし、居心地よく過ごしています。段差もありますが、筋力低下を防ぐためにも、あえてそのままにしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、今まで使われていたタンス、テレビ、ベッド、カーテン、布団等の持ち込みがあり、ベッドだけでなく畳の上に布団を敷いたり、一人ひとりが居心地良く過ごせるように家族に働きかけながら支援をしています。畳の匂いが漂い、清潔感が感じられます。また、お茶碗、湯呑、箸なども持って来られています。		